

## 輸出品目別レポート（真珠）

### ■品目説明

真珠には天然真珠と養殖真珠があり、海で生産される海産真珠と湖沼や河川で生産される淡水真珠がある。

日本の養殖海産真珠のうちアコヤ貝を母貝とした「アコヤ真珠」は、愛媛県、長崎県、三重県など西日本を中心に生産されている。中国においても80年代後半から本格的に生産されている。オーストラリア、インドネシアなどの海域では白ちょう貝を母貝とした「白ちょう真珠」、通称「南洋真珠」が、またポリネシア、ミクロネシア海域では黒ちょう貝を母貝とした「黒ちょう真珠」が生産されている。池ちょう貝などを母貝とした淡水真珠は、日本では霞ヶ浦、琵琶湖周辺などで生産されている。流通している淡水真珠の大部分は中国産で占められ、国産はごくわずかである。

日本産真珠は、日本独自の四季によって育まれ、他国産に比べて真円に近い球体のものが多く、色やテリが特に美しいと評価されている。このため、より良質な真珠を求める層を中心に、アコヤ真珠をはじめとした日本産真珠の需要がある。

オーストラリアで養殖されている真珠は、暖かい海域で育つ南洋白ちょう真珠（White South Sea Pearls）である。南洋真珠は粒が大きいことや、自然が作り上げる色と光沢の美しさが特徴で、宝石の女王と呼ばれる。

農林水産省「令和6年度漁業・養殖業生産統計」によると、2024年の国内生産量は、前年比4.1%増の1万2,800キログラムであった。県別にみると、長崎県5,800キログラム、愛媛県4,100キログラム、三重県1,800キログラムとなっている。この3県で全国の生産量の約90%以上を占めている。

業界団体としては、一般社団法人日本真珠振興会、日本真珠輸出加工協同組合、日本真珠輸出組合などがある。

### ■貿易概況

2023年の真珠の輸出動向をみると、金額は前年比80.2%増の3億2,424万ドル、数量は同20.2%増の3万3,769キログラムであった（なお、真珠製品HS7116.10は除く）。

主要輸出国・地域の動向をみると、1位（金額ベース）の香港は、金額が前年比108.5%増の2億7,278万ドル、数量が同50.8%増の25,548キログラムであった。香港への輸出のみで、全体の輸出金額で84.1%、数量で75.6%を占めた。

2位の米国は、金額が同7.3%増の1,859万ドル、数量は同31.0%減の3,304キログラムであった。3位のマカオは、金額が同5.2%減の639万ドル、数量は同53.1%減の360キログラムであった。

なお、2024年の真珠の輸出は、411億8,900万円（同9.7%減）であった（出所：農林水

産省「令和7年（2024年）農林水産物・食品の輸出額」。

▼表1：日本の真珠（天然・養殖）輸出

（単位：ドル、キログラム、%）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	114,575,163	12,792	130,804,550	16,940	272,787,782	25,548	108.5	50.8
米国	17,916,544	3,924	17,327,740	4,786	18,590,927	3,304	7.3	△ 31.0
マカオ	1,446,424	104	6,744,698	768	6,392,657	360	△ 5.2	△ 53.1
タイ	6,399,880	548	6,824,380	870	6,087,528	675	△ 10.8	△ 22.4
中国	4,638,438	703	2,199,581	1,768	5,970,989	1,489	171.5	△ 15.8
全世界	156,477,588	19,902	179,963,412	28,087	324,242,369	33,769	80.2	20.2

注：対象はHSコード 7101

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

なお、真珠は、農林水産省「輸出拡大実行戦略」（2025年5月）の輸出重点品目のひとつであり、2030年までに輸出額472億円（香港381億円、中国10億円、米国34億円、タイ15億円など）を目標としている。

課題としては、真珠の品質基準等の策定、ECを活用したBtoB取引の推進、日本産真珠の認知度が低い国・地域（EUや中東など）への販路拡大、アコヤ母貝の安定生産を目的とした遺伝子系統の解析と保存、養殖産地間の生産振興活動の強化を通じた地域ブランド品の増産などが挙げられている。

一般社団法人日本真珠振興会は、認定農林水産物・食品輸出促進団体として、海外における販路開拓活動を積極的に取り組んでいる。

## ■海外事情

### ●香港

2023年香港における真珠の輸入動向（金額）をみると、前年比43.5%増の6億121万ドルであった。輸入相手国・地域の動向をみると、1位の日本が前年比66.2%増の2億7,172万ドル（シェア45.1%）であった。2位のインドネシアは、同71.0%増の1億1,485万ドル、3位のオーストラリアは、同10.5%増の6,918万ドルとなり、上位3カ国の合計シェアは、7割超を占めた。

▼表2：香港の真珠（天然・養殖）輸入

(単位：ドル、キログラム、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	132,397,341	212	163,516,440	30	271,721,314	62	66.2	106.7
インドネシア	59,818,487	0	67,176,131	1	114,854,684	15	71.0	1400.0
オーストラリア	56,008,746	2	62,596,948	1	69,182,919	0	10.5	—
オセアニア（大洋州）	35,433,396	0	39,168,112	0	63,442,569	0	62.0	—
中国	19,280,892	0	24,117,427	0	30,204,230	1	25.2	—
全世界	360,167,464	217	418,964,088	47	601,216,211	102	43.5	117.0

注：対象はHSコード 7101

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

香港は、関税が無税であるほか、貿易取引形態がシンプルで、決済機能やモノの出し入れなどの面から大きなメリットが得られる市場である。真珠など宝飾に係る大規模な見本市が年間複数開催されるなど、域内および中国向け消費市場としての役割のみならず、在庫機能や第3国との取引といった集積地としてのハブ機能も有している。また、香港で真珠（素材）を加工して製品化したものを、経済貿易緊密化協定（CEPA）を活用し、香港原産地の製品としてゼロ関税で中国へ再輸出できる環境もある。中国本土からの観光客の購入やインド・中東などへの再輸出も多くみられる。

中国での需要が高まっていることから、中国国内における真珠サプライチェーンなどの調査を実施し、日本産アコヤ真珠の取引実態を把握することが課題である。

- ・ [2019年以来初、香港国際ダイヤモンド、ジェム&パール・ショーと香港国際ジュエリーショーが同時開催\(香港\) | ビジネス短信 一ジエトロの海外ニュース - ジェトロ](#) (2024年3月)
- ・ [世界最大級の宝飾品展示会「ジュエリー&ジェムワールド香港」に ジャパン・ブランド・パビリオン初出展 —14 ブランドが出品— | 2025年 - 記者発表 - お知らせ・記者発表 - ジェトロ](#)
- ・ [平成27年度 中国 ジュエリー市場に関する調査 \(2016年3月\) | 調査レポート - 国・地域別に見る - ジェトロ](#)

## ●米国

2023年米国における真珠の輸入額は前年比0.6%増の7,656万ドルであった。主要輸入相手国・地域別にみると、1位の日本が2,261万ドル（前年比4.7%減）、2位のカタールが1,134万ドル（668.5%増）、3位の中国が1,031万ドル（1.5%増）であった。

▼表3：米国の真珠（天然・養殖）輸入

(単位：ドル、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	21,832,466	3,724	23,738,666	1,925	22,613,488	1,714	△ 4.7	△ 11.0
カタール	—	—	1,475,894	0	11,342,259	3	668.5	5964.0
中国	11,133,382	20,317	10,162,940	18,856	10,311,123	16,445	1.5	△ 12.8
ポリネシア	8,707,725	1,379	10,851,640	1,493	7,704,494	2,336	△ 29.0	56.5
香港	7,963,572	6,070	9,552,494	6,774	7,196,195	7,349	△ 24.7	8.5
全世界	64,104,189	32,495	76,134,509	29,939	76,564,540	28,821	0.6	△ 3.7

注：対象はHSコード 7101

注：統計は金額のみ。

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

米国では、真珠は結婚式のアイテムだけではなく、ファッショナブルアイテムやジュエリーとして女性のみならず男性やさまざまな年齢層で人気になりつつある。

一方で、日本産真珠が安価な中国産淡水真珠と競合により、すべての真珠が横並びで価格競争を強いられる場合も少なくない。今後も、日本産真珠の品質の高さや他国産との違いに関して、現地でのプロモーションに加え、有力バイヤーなどを日本に招聘し、養殖産地や加工現場の視察を通じて日本産真珠の魅力を発信する取り組みの強化が求められる。

### ● そのほか

- ・[真珠の“輝き”オンラインでどう伝える？ | 2022 - これまでの番組 - 国際ビジネス情報番組「世界は今 -JETRO Global Eye」 - ジェトロ](#)
- ・[宝飾品見本市で日本のアコヤ真珠をテーマとしたトークセッション開催\(日本、イタリア\)](#)
- ・[ビジネス短信 ～ジェトロの海外ニュース - ジェトロ \(2023年10月\)](#)
- ・[平成29年度 タイ ジュエリー市場に関する調査 \(2018年3月\) | 調査レポート - 国・地域別に見る - ジェトロ](#)

ジェトロ特設ページ「[ALPS処理水の処分に伴う輸出等の対策に関する特別相談窓口および各国・地域の動向について](#)」では、各国・地域の動向について幅広い情報提供を行っている。

本レポートに関する問い合わせ先：  
日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006  
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル  
TEL：03-3582-5186

#### 【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。